一般質問

令和3年12月9日 第4回広尾町議会定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	1 0	小 田 雅 二
2	4	前崎茂
3	1	松田健司
4	1 1	旗手惠子

通告順序 1 質問者:小田雅二

1.地域振興プレミアム付商品券(第2弾)の販売方法について

10月17日に発売された地域振興プレミアム付商品券の販売方法(手続き)について、多くの町民から苦情があったとされる。

購入手続き(申し込み)から始まり、最終的に商品券を手にするまで、一人平均どの位の時間がかかったのか。また、発売開始後、1~2時間経ってから並び始めた人は、どの位の時間待つ状態となったのか。午後には完売してしまったとの事だが、何時頃となったのか。完売の時点でどの位の人が買えずに帰られたのか。

この商品券は、住民であれば世帯の人数にかかわらず子供や幼児の分についても親が順番の列に並びさえすれば購入できるとされている。しかし、他の自治体のプレミアム付商品券の販売方法をチェックしていくと、あらかじめ全世帯に購入希望券を送付しておいて期間内に申し込みがあれば、申請希望者全員に販売する(ただし、1世帯に1組等の制限があるが)事ができるようにしている所も多く見受けられ、残った場合は、後日抽選等で分配もしている。

今まで、古くは地域振興券から始まり、色々な名目でのプレミアム付商 品券が自治体から発売され続けているが、町として本来の目的と住民にと っての公平感を維持すべく、一定のルールを築いていくべきと思うが。

2.新型コロナワクチン接種の3回目についての体制と副反応対策に ついて

新型コロナウイルスワクチンの3回目の接種が予定されている。1回目、2回目の接種において、副反応の程度が高かった人については、より細やかな対応が求められると考えられるが、町としての具体的な対策は。

1.再生産できる赤潮被害対策支援を

十勝を含む道東沿岸の赤潮被害に関し、北海道大学大学院水産科学研究 グループは、ロシア海域から親潮に沿って高濃度の植物プランクトンが南 下したと観測調査結果を公表した。

道東沿岸の赤潮被害総額は、現時点で80億円を超え、ウニが9割を占めると算出している。本町もウニの赤潮被害は100トン超、被害額は2.3億円と算出している。また、ウニ以外でもエゾバイツブや10月、11月からのタコ、ホッキなども赤潮被害の影響とみられ、漁獲量が激減している状況である。今回の赤潮被害は、自然災害であり激甚災害とも言える。漁業資源が回復するまでには数年かかるとされ、今後再生産できるよう中期的な支援が必要と考えるが。

また、町税等の減免も検討すべきと思うが町の考えは。

2.特別養護老人ホームの入所待機者の早期解消を

特別養護老人ホームの入所定員は50人であるが、平成29年度末の入所者50人に対し、平成30年度末43人、令和元年度末42人、令和2年度末44人、今年度11月末は45人と入所定員より5人から8人が少なくなっている。

現在の待機者は、介護度3~5までで33人となっている。従前のように入所者数を入所定員に近づけることにより、入所待機者数が緩和され、要望にこたえることができる体制を構築すべきと思うが。

通告順序 3 質問者:松田 健司

1 . インターネット回線を利用したまちづくりのビジョンについて

今年度中に、町内のほぼ全域にインターネットの光回線が整備され、役場庁舎内ではFree・WiFi(フリー・ワイファイ)のサービスが開始される。

情報インフラが整った後のインターネット回線を利用したまちづくり のビジョン、また情報発信の強化や業務の効率化について伺う。

2. いじめ事案が発生した時の対応について

いじめに関する事案が発生した際の対応と予防策について、現状の認識と課題等について伺う。

通告順序4 質問者:旗手 恵子

1.気候危機から町民の暮らしを守るために

新型コロナウイルスのパンデミックは、地球規模の災害であり、その要因の一つに地球温暖化があると言われている。

国連IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は8月9日、「人間の影響が地球を温暖化させてきたことは、疑う余地がない」と初めて断定し、破局的な気候変動を回避するためには、2030年までに大気中の温室効果ガスの排出を2010年比、45パーセント削減、2050年までに実質ゼロを達成しなければならないと強調している。このことから、その実現のために日本を含む世界196か国がパリ協定に参加した。

本町の「第6次広尾町まちづくり推進総合計画」では、環境保護の取組 として、施策 で「地球環境・エネルギー対策の推進」が掲げられている が、具体的な推進方法は。